



妊婦さんのシートベルト着用について

妊娠すると、おなかが大きくなり、乗車中、シートベルトが窮屈に感じたり、シートベルトでおなかの赤ちゃんが苦しくないだろうかと赤ちゃんのことが心配になったりされるのではないのでしょうか？そこで今回は、シートベルトについて少しお話したいと思います。

とある報告によると、日本では年間約 1~7 万人の妊婦さんが交通事故により負傷し、約千人から一万人の胎児が流・早産し、年間 40 人程度の妊婦さんの死亡事故が起こるとされています。また、別の報告によると、交通事故による母体死亡の77%が、シートベルトを着用していない状況で発生しているとのこと。妊婦さんがシートベルトを着用していない場合の交通事故時の胎児死亡相対危険度は、シートベルトを着用していた場合の 4.1 倍になるとも指摘しています。



日本のシートベルト着用義務規定における妊婦の取り扱い文書は一部曖昧で、罰則規定がないなど、解釈・運用に混乱がみられます。でも、やっぱり妊婦の方々にもきちんとシートベルト着用をすることをお勧めいたします。

その為にも正しいシートベルト装着方法について知っておきましょう。

- 1.常に肩ベルトと腰ベルトの両方を装着しましょう。
- 2.腰ベルトはお腹の膨らみを足側に避けて、腰骨の最も低い位置で通しましょう。
- 3.肩ベルトはお腹の膨らみを頭側に避けて、両乳房の間を通しましょう。また、頭側にずれて首をこすらないよう、位置を調整しましょう。
- 4.ベルトが緩むことなく、ぴったりと心地よく身体にフィットするよう調節しましょう。必要があれば、ベルトが適切に装着できるよう、座席シート自体の位置や傾きを調節しましょう。
- 5.お腹の膨らみとハンドルの間には若干の空間ができるよう、座席シートの位置を前後に調節しましょう。

